

25年後に向けての新ビジョン提言

アジアで輝き続ける循環型都市ふくおかを目指して

～市民・企業等との協働、福岡都市圏との連携を基軸に～

道路下水道局職員提言検討チーム



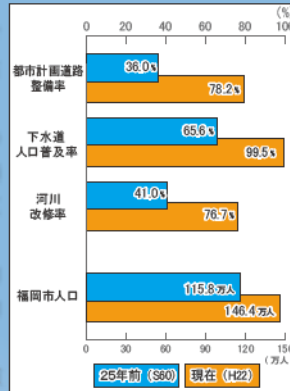
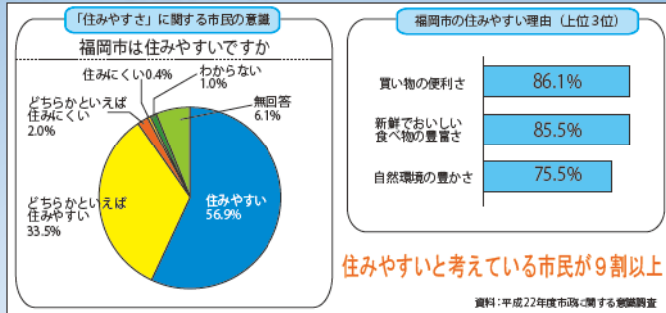
1. 今までの25年間

これまでの25年、本市は社会の発展や人口増加を背景とした、主にハード整備・量的要望の市民ニーズに応えるため、道路・下水道・河川の各種都市基盤の整備を推進してきた。

道路については、増加した自動車交通に対応すべく、主要放射環状道路の整備や鉄道と道路の連続立体交差事業など、渋滞対策を始めとした基幹交通ネットワークの充実を図ってきた。また、下水道・河川については、水洗化区域の拡大と浸水対策を柱とする生活環境整備の促進を図ってきた。

この結果、都市計画道路整備率、下水道人口普及率、河川改修率は飛躍的に伸びており、都市としての利便性や安全性が向上し、市民だけでなく国際的にも、「住みやすい都市」として高い評価を得ている。

一方で現在では、アイランドシティなど新たな拠点への交通ネットワーク強化や、ゲリラ豪雨などの新たな都市型水害への対応に加え、大地震への対応など、新たなニーズも発生している。



世界で最も住みやすい都市 14位

2008年:17位 ショッピング・ベストシティ
2009年:16位
2010年:14位

世界で最も住みやすい都市トップ25

- | | |
|------------|------------|
| 1位 ミュンヘン | 7位 バリ |
| 2位 コペンハーゲン | 10位 マドリード |
| 3位 チューリッヒ | 14位 福岡 |
| 4位 東京 | 16位 バンクーバー |
| 5位 ヘルシンキ | 23位 京都 |
| 6位 ストックホルム | 25位 リスボン |

【選出理由(2008年)】
大都市の利便性を全て備えている、すばらしいショッピング施設、美味しい食事、交通の便のよさ、安全で清潔、何とも言えない開放感

資料：英国 Monocle誌

2. 福岡市の強み

今後の福岡市の発展には、日本国内だけでなくアジアの各都市との差別化が不可欠であり、福岡市の強みを活かし、強化していくことが重要である。

福岡市の強みとして、第一に挙げられるものは、「住みやすさ」である。

また、日本の大都市の中では、総人口に占める若者率と女性の割合が最も高く、また、福岡都市圏を中心に人や物が活発に行き交う、活力に満ち溢れた街である。

さらに、経済成長が著しいアジアに近い地理的な特性も大きな強みである。



3. これからの25年

今後は、生産年齢人口の減少による財政問題、高齢化社会への対応、都市基盤の再整備、多様化する市民ニーズへの対応など、都市に課せられた様々な問題がある。また、地球温暖化対策・エネルギー対策など、世界的な環境・エネルギー問題が顕著化していくものと思われる。これらの問題に本市行政のみで対応するには限界があり、市民や企業と協働し、福岡都市圏と連携していく必要がある。

以上の分析を踏まえ、検討チームとしてはこれからの25年、「住みやすさ」「街の活力」「アジアとの近さ」という福岡市の強みをさらに強化しつつ、今後も福岡市が災害に強く、安全で安心して暮らせる都市であり続ける必要があると考えた。

4. 新ビジョンへの提言

これまで分析・検討してきた「福岡市が25年後に向けて取り組むべき課題と強化すべき強み」を踏まえ、以下に検討チームとして「福岡市が目指すべき社会」と、その社会による実現を目指す「将来の福岡市への基本コンセプト」を提言する。

課題と強み

- 世界的な環境問題
- 世界的なエネルギー問題
- 「アジアとの近さ」という強み
- 災害に強く安全安心な都市
- 都市に課せられた諸問題
- 「街の活力」という強み
- 行政の限界と市民や企業との協働、福岡都市圏との連携の必要性
- 「住みやすさ」という強み

目指すべき社会

【Ⅰ 安全】

地球温暖化の進行や大規模地震などの自然災害に対応できる強靱な社会

【Ⅱ 環境】

住みやすさを維持、強化しつつ資源の逼迫に伴う省(創)エネルギー型社会

【Ⅲ 活力】

既存資産や地域特性を活かした人が集う魅力ある社会
アジアに向けた新たなビジネスチャンスを生み出す社会

市民や企業等との協働や福岡都市圏との連携の強化

このような社会を構築することで、アジアの中でキラリと輝く特色ある都市として在り続けることができる

将来への基本コンセプト

『アジアで輝き続ける循環型都市ふくおか』を目指して
～市民や企業との協働、福岡都市圏との連携を基軸に～

大規模災害等に強靱で安全で安心できる暮らしを営み続けることができ、自然の恩恵や既存の施設・資源を最大限に活用・再生し、地球環境に低負荷な循環の仕組みを構築するとともに、住む人・訪れる人にとって魅力的で開かれた活力のある都市づくりを行い、アジアをはじめ世界と、ビジネスや観光で人々が活発に交流・循環するアジアで輝き続ける循環型都市の実現に向け、市民や企業等との協働、福岡都市圏との連携を通じ施策展開していくべきである。

5. 具体的な施策

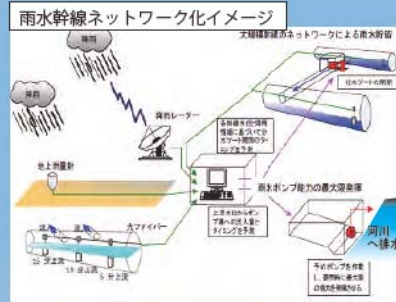
【I 安全】地球温暖化の進行や大規模地震などの自然災害に対応できる強靱な社会

交通事故・違反などの危険を未然に回避するシステムの構築

- ICT情報端末等を活用し、道路情報や交通情報などを通行者間で相互通信し、事故等を未然回避するシステムの構築

福岡都市圏の流域単位の総合的な治水・浸水対策

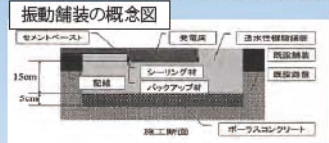
- 県から市への二級河川の権限移譲
- 既存施設の有効活用（雨水幹線のネットワーク化等）
- 人口減少に伴う空き地を活用した土地利用規制・誘導による床上げ規制、遊水地設置等、雨水貯留施設の整備



【II 環境】住みやすさを維持・強化しつつ資源の逼迫に伴う省（創）エネルギー型社会

既存資産（道路空間、下水道施設）を活用した新エネルギー創出

- 通行車両の振動を元に発電する振動舗装



- 都心のビル風を活用する照明灯と一体式の風力発電施設
- 太陽光など自然エネルギーを活用した電力100%自給型下水処理場

機能集約・公共交通機関への転換による環境負荷低減

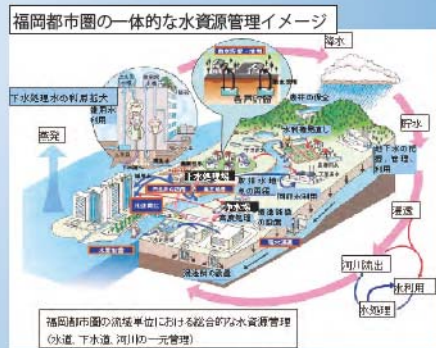
- 人口減少に伴った、社会基盤施設のダウンサイジングと駅やバス停周辺など地域拠点への利便施設及び居住地の誘導による公共交通施設の利用促進・移動エネルギーの縮減

市民・民間事業者と共働した自家用車の利用抑制

- 交通事業者、駐車場事業者、宅配便事業者等のサービスパッケージの提供による公共交通機関の利用促進、自家用車の利用抑制

水資源の総合的な管理と湧水量の復活

- 博多湾流域の福岡都市圏において、上下水道、河川、地下水の水資源の管理を一体的に実施



再生水の利用拡大

- 第3の水源である下水処理水の供給エリアや利用用途を、福岡都市圏全体に拡大

【III 活力】既存資産や地域特性を活かした人が集う魅力ある社会 アジアに向けたビジネスを創出する社会

都市空間の積極的な活用による魅力向上

- 渡辺通りなど一定規模の道路を中心とした都市空間においてイベント実施
- イベントの実施と合わせて、バス・自転車の利用を促進

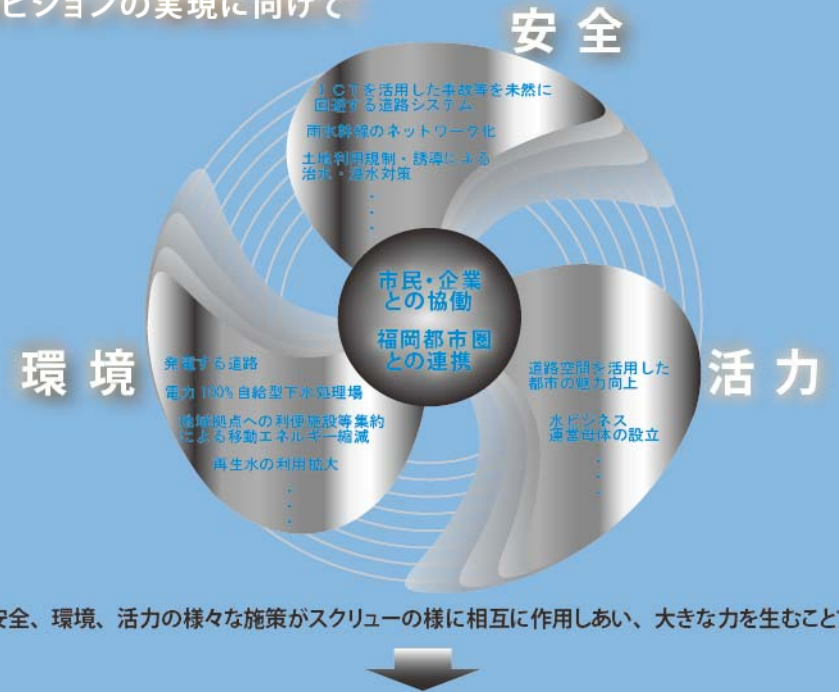


世界の水ビジネスへの参入

- 官民協働、福岡都市圏連携により、上下水道事業を一体運営する民間主体の事業母体を設立



6. 新ビジョンの実現に向けて



『アジアで輝き続ける循環型都市ふくおか』の達成!!

道路下水道局 新ビジョン提言検討チーム

所 属		氏 名
リーダー	総務課長	しばやま けんじ 柴山 賢治
総務部	経理課	いまふく ひろかず 今福 寛和
管理部	路政課	しのはら さえみ 篠原 佐恵美
	道路管理課	このみ たかふみ 許斐 敬史
	道路維持課	しげまつ たかのぶ 重松 隆信
	下水道河川管理課	はせがわ ともあき 長谷川 智明
計画部	計画調整課	むらかみ ようこ 村上 洋子
	道路計画課	たかはし のぶかず 高橋 伸和
	下水道計画課	いど たかふみ 井戸 隆文
	河川計画課	いで しょうたろう 井手 章太郎
建設部	建設調整課	うどう けんいちろう 有働 健一郎
下水道施設部	施設管理課	はまち ともかず 濱地 友和

(事務局)

所 属		氏 名
総務部	総務課	きざき しんじ 木崎 新治
		みやもと たかゆき 宮本 剛行